

科目名	メディア文化論特講	担当者	エノモト 榎本 マサキ 正樹	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>映像作品は、複数のスタッフの協働作業によって成立する。エンドロールで流れる膨大なスタッフ名と多種多様な仕事内容に、誰もが驚愕した経験があるはずだ。あらゆる映像作品は「監督」の名の元に統括されるが、監督もまた分業化された仕事の一つに過ぎない。</p> <p>前期の授業は、アニメーションの制作工程と各工程での仕事内容を細密に検討することによって、アニメーションの制作プロセスを可視化し、アニメーション制作の現場的・実践的な方法を習得することを目的とする。現在、多くのアニメーション作品は、コンピュータを活用したデジタルアニメーションへとシフトしている。制作現場のデジタル化が、新しい表現や革新的な技術革命をもたらしている。アナログのセルアニメーションからコンピュータによるフルデジタルアニメーションへの移行によって、どのような変革がもたらされ、新たな表現の地平が開けたのか、二十一世紀のアニメーションの表現史を批評の言葉で思考し、分析し、言述化する能力を獲得することを前期授業の最終的な目的とする。</p> <p>後期の授業は、「デジタルアニメーション表現の現在」の雛形ともいえる新海誠監督の全作品を取りあげ、その作品世界を考察、分析し、自分の言葉で論じる力を獲得することを目的とする。新海監督のキャリアは、アニメーション制作の現場にデジタルの波が押し寄せるゼロ年代初頭に遡ることができる。デジタル表現の開拓者としての新海の評価は、最新作『天気の子』に到るまで一貫している。</p> <p>新海作品には「言葉」への信頼、言い換えれば「文学」への強い視線が底流している。人と人の中で取り交わされるコミュニケーションとディスコミュニケーションの情景を、独自の映像美学によって丁寧にすくい取る新海の手法は、「アニメーションという表現手段を用いた文学」と形容可能なものである。</p> <p>新海監督の初期作品から最新作『天気の子』までの作品を参看しつつ、その表現世界を紐解くことで、同時代の先鋭的な表現者である新海誠の思想と方法を明らかにする。前期の授業内容を踏まえ、新海作品におけるスタッフワーク（原作、脚本、絵コンテ、原画、動画、美術、CG、撮影）に着目し、各セクションの作業内容の詳細についても知見を得る。最終的に、新海作品を深く解説する試みを通して、映像研究の方法を獲得することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>最新のアニメーション制作の情報に触れ、制作工程を理解する。映像表現であるアニメーション作品を多様な視点から分析、考察し、研究的な視座から言述化する能力を身につける。アニメーション作品は分業化された作業プロセスの集合体である。作家論、作品論的な視点に加え、多種多様なスタッフワークの協働による装置産業としての側面をもつアニメーション制作の特殊性に鑑み、テクニカルな視点から作品を論じるための知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>協働作業の産物としてのアニメーションの制作工程を、説明することができるようになる。アニメーション監督の全作品を分析的に観賞する作業を経由して、固有の作家性や作品のテーマやモチーフを批評の言葉によって言述することができるようになる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folio でのディスカッションと情報共有、教員とのインタラクティブなコミュニケーションを通して、レポート提出を目指す。</p> <p>【学修方略（LS）と学修時間】</p> <p>前期は基本教材1を読み進めることをメインとする（20時間/自習）。教材の中で言及されている作品は、適宜観賞すること（20時間/作品鑑賞）。アニメーション業界の仕事内容について詳しく知りたい学生は、水島努監督の『SHIROBAKO』（全24話）を観賞のこと。基本教材1の問題点や論点を整理しながら研究を行い（20時間/自主研究）、レポートの作成を行う（30時間/レポート2本）。</p> <p>後期は新海作品の観賞（15時間/自習）、レポートの提出に向けた基本教材2の精読（25時間/自習）、作品鑑賞と基本教材2の分析と考察（20時間/自主研究）、レポートの作成（30時間/レポート2本）という流れになる。レポート提出に必要な情報や参考資料については、レポート添削時のディスカッションで適宜提供する（ディベート）。</p>		
スケジュール	<p>前期：6月末までにレポート課題1の初稿を提出 8月末までにレポート課題2の初稿を提出 *最終稿は前期の提出期限までに仕上げ、提出すること</p> <p>後期：10月末までにレポート課題1の初稿を提出 12月末までにレポート課題2の初稿を提出 *最終稿は後期の提出期限までに仕上げ、提出すること</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	
	観察記録	%	
履修者への要望	<p>日常的にアニメーションに触れる機会が少なくても、映像表現やサブカルチャーなどに関心がある学生であれば学修できる授業内容である。アニメーション研究は一つの研究としてフィックスしたものではなく、既存の様々な研究領域を横断することで成り立つ新しい研究である。既存の考え方や方法やアプローチにとらわれることのない、自由な視点に立った意欲的なレポートを期待する。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 高瀬康司編 教材名： アニメ制作者たちの方法 21世紀のアニメ表現論入門 (フィルムアート社、2019年) ISBN:978-4-8459-1808-9 1,800円＋税
	一般には窺い知ることができないアニメーション制作の内側について、業界の関係者や研究者が丁寧に解説した一冊。インタビュー、対談、論考、作例解説、コラム、作品ガイド、ブックガイドなど、多面的なコンテンツを通して「アニメーション制作の現在」についての情報を得ることができる。
参考図書	教材所収の「アニメーションをめぐるブックガイド」を参照のこと。その他の参考文献に関しては、必要に応じてレポート添削時のディスカッション等で紹介する。
履修上のポイント	「装置産業としてのアニメーション」という見逃されがちな視点を常に意識しながら授業に臨むこと。作品を「分業化されたスタッフワークの産物」と見なすことで、新たな視点に立ったアニメーション論が期待できる。デジタル化によってもたらされた表現方法の更新についても常に念頭に置くこと。技術は日進月歩であるがゆえ、ネット等で最新のニュースやトピックに触れる機会を持つこと。作品の個性を技術と表現の不可分の結びつきの結果としてとらえ、考察や分析へとつなげていくことを心がけること。
レポート課題 1	現在のアニメーション制作にはどのようなスタッフワーク（分業化された仕事内容）が存在するのかを調べ、それぞれのスタッフワークの作品制作における意味を3,000字以上でまとめる。具体的な作品に沿う形も可。 留意点： 制作進行や広告などの周辺の仕事は、含めなくてもよい。
レポート課題 2	教材の中で言及されている作品から一作を選び、その作品の表現上の特徴を「デジタル」の観点から3,000字以上で論じる。 留意点： 作品選びがポイントとなる。自分が展開する論の趣旨に合う作品を選ぶこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 榎本正樹 教材名： 新海誠の世界（仮題） (KADOKAWA、2021年) *2021年夏頃刊行予定。
	新海誠のクリエイターとしての歩みと、新海監督の全作品について論考した評論集。各作品論と新海監督へのロングインタビューから成る。
参考図書	各作品の劇場パンフレット。『新海誠 絵コンテ集』(KADOKAWA)。公式ビジュアルガイド。美術画集。「新海誠展」図録。
履修上のポイント	新海監督はデビュー以前の最初期作品から最新作の『天気の子』まで、コミュニケーションとディスコミュニケーションをめぐる情景を一貫して描いてきた。「時間」と「空間」と「距離」にまつわる「断絶」が、各作品でどのように描かれ、作品ごとにどのように変化していくのかに注意しながら観賞すること。従来のアニメーション表現を越えた、緻密で美しい情景描写も、新海作品の特徴である。「緻密さによって表現されるもの（こと）」とは何なのか、という問いを常に意識して作品分析に臨むこと。
レポート課題 1	『天気の子』で描かれる「東京の情景の特殊性」を3,000字以上で論じる。 留意点： 作中では東京のどの場所が登場するのか。そして、その場所にはどのような歴史的、文化的、社会的意味があるのかを考察に含めること。
レポート課題 2	新海監督作品から一作、または複数作を選んだ上で、自分の読みのポイントを明らかにした上で、3,000字以上で作品論を展開する。 留意点： テーマ設定や論述方法を含め、自分で考え、構想し、レポートにまとめあげること。各自、異なるテーマでレポートを書くことになるので、個別に指導する。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の Introduction、Interview 1、Column 1、Discussion 1、Study 1 の精読
第 2 回	作品鑑賞、関連資料の収集と分析
第 3 回	レポート課題 1：初稿の準備（基本教材 1 の分析と考察）
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成と添削指導
第 5 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 6 回	レポート課題 1：最終稿の作成と提出
第 7 回	教材の学修：基本教材 1 の discussion 2、Expanded work、Column 2、Interview 2 の精読
第 8 回	関連資料の収集と分析
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の Discussion 3、Situation/History、Critic、Study 3 の精読
第 10 回	関連資料の収集と分析
第 11 回	作品鑑賞と作品分析
第 12 回	レポート課題 2：初稿の準備（基本教材 1 の分析と考察）
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成と添削指導
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成と提出

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の精読
第 2 回	作品鑑賞と作品分析
第 3 回	関連資料の収集と分析
第 4 回	レポート課題 1：初稿の準備（基本教材 2 の分析と考察）
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成と添削指導
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成と提出
第 8 回	教材の学修：基本教材 2 の精読
第 9 回	作品鑑賞と作品分析
第 10 回	作品鑑賞と作品分析
第 11 回	関連資料の収集と分析
第 12 回	レポート課題 2：初稿の準備（基本教材 2 の分析と考察）
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成と添削指導
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成と提出